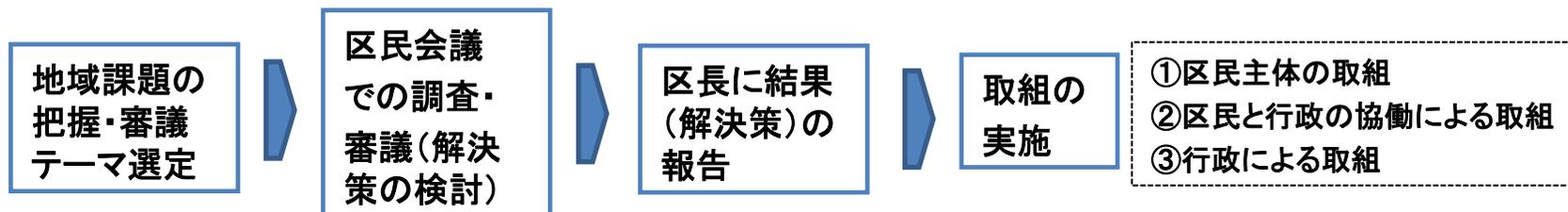


1 区民会議とは？

区民会議とは？

暮らしやすい地域社会を目指して、区民のみなさんが中心となって**参加**と**協働**により地域社会の課題解決を図るために調査審議をする会議です。

■ 区民会議を通じた課題解決の仕組み



【参考】

- ・川崎市自治基本条例第22条に「区民会議」を規定。
- ・それに基づき川崎市区民会議条例を制定。
- ・平成18年7月に第1期区民会議が立上り、現在第3期目。(委員任期2年)

2 区民会議の設置と審議課題の選定

(1) 第3期区民会議立上げ(H22.7.1)

- ・委員構成 20名(団体推薦7名、区長推薦6名、公募7名)
- ・任 期 2年(H22.7.1～H24.6.30)



(2) 審議課題・テーマの選定

- ・各委員からの提案(アンケート調査)
- ・提案箱、区ホームページ等からの意見募集
- ・第1・2期区民会議の提言



企画部会

- ・取組課題の分類と整理
- ・各専門部会設置(案)の策定
- ・全体テーマ(案)の立案

3 審議課題・テーマの分類と整理

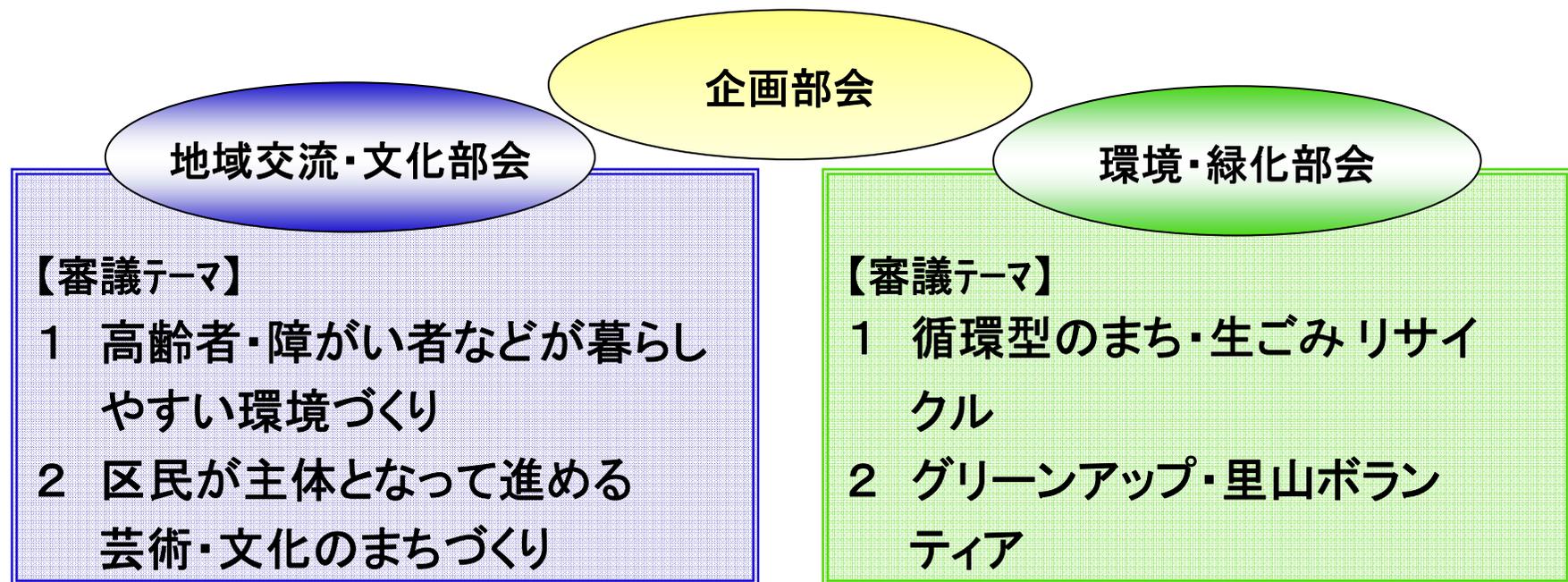
提案審議課題の分類別け(川崎再生フロンティアプラン7つの基本政策による分類)

I 安全で快適に暮らすまちづくり	II 幸せな暮らしをともに支えるまちづくり	III 人を育て心を育むまちづくり	IV 環境を守り自然と調和したまちづくり	V 活力にあふれ運動するまちづくり	VI 個性と魅力が輝くまちづくり	VII 参加と協働による市民自治のまちづくり
<p>災害・危機対応</p> <p>1 緊急災害時における緊急医療体制</p> <p>2 自主防災組織と災害時の障害者2次避難所との連携</p> <p>地域交通</p> <p>3 交通空白地域等へのコミュニティ交通</p> <p>4 公共交通と地域内交通のあり方</p>	<p>高齢者</p> <p>5 コミュニティで介護を下ささえ出来る社会環境の実現</p> <p>6 高齢者が安心して生活できる環境づくり</p> <p>7 麻生区自殺低減作戦</p> <p>8 福祉施設の地域での役割と連携のみならずづくり</p> <p>地域のつながり(交流)</p> <p>* 13 大学生と連携した活動</p> <p>* 14 異世代間の交流</p> <p>15 子育て世代と高齢者との日常的な交流の場づくり</p> <p>* 16 地域コミュニティシステム作り</p>	<p>子育て</p> <p>9 子育てしやすい環境づくり</p> <p>10 働くおかあさんがんばって! 作戦</p> <p>11 地域の子育てと遊び場(調整地の利用)</p> <p>12 総合型地域スポーツクラブの設立</p>	<p>緑化(保全)</p> <p>17 農地を含む自然環境の保全活動</p> <p>18 緑と農</p> <p>19 市民による緑地保全のための里山ボランティア制度</p> <p>20 区の緑地・公園の再整備と維持管理制度の確立</p> <p>環境</p> <p>21 家庭エコ活動の拡大展開</p> <p>* 22 (エコのまち麻生の推進)生ごみリサイクル相談会、生ごみ堆肥による写真展、地産地消</p> <p>* 23 (エコのまち麻生の推進)レジ袋削減、ゴミ減量、自然エネルギーや省エネなど地球温暖化防止対策、太陽熱温水器、風力発電機、非電化冷蔵庫</p>	<p>文化・芸術</p> <p>24 区制30周年に合わせた区民参加と地域づくりの検討</p> <p>25 区制30周年を記念した「区民の木、花」決定にむけての取り組み検討</p> <p>26 「しんゆり・芸術のまち」のイメージ強化</p> <p>27 「しんゆり・芸術のまち」の情報発信</p> <p>* 28 芸術祭を盛り上げる企画</p> <p>地域のつながり(交流) 再掲</p> <p>その他</p> <p>32 第1・2期の課題の担い手の発掘と育成</p> <p>33 第1・2期で取りまとめた内容の再精査と継続等の検討</p>	<p>市民活動</p> <p>29 市民利用施設、活動支援拠点施設の連携ネットワーク</p> <p>30 区内の情報を整理し統合した「あさお情報センター」</p> <p>31 区民参加の麻生区づくりに関する区民の声を聞くフォーラムの開催</p> <p>* 34 第2期地域交流部会の継続取組</p>	

* 印 第2期区民会議取組課題

4 審議課題・テーマの選定

全体テーマ:「人と人と心をつなぐ地域づくり」



- ・提出された課題を2つに大別し、その区分に基づいた専門部会を設置
- ・各専門部会において、審議テーマを選定

5 審議課題・テーマ一覧と実施概要

全体テーマ:「人と人と心をつなぐ地域づくり」

部会名	企画部会	地域交流・文化部会	環境・緑化部会
審議 テーマ		<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり 2 区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 1 循環型のまち・生ごみリサイクル 2 グリーンアップ・里山ボランティア
テーマ (課題) の概要	【役割】 <ul style="list-style-type: none"> 1 会議運営の事前調整 2 課題の整理及び調整 3 広報及び広聴に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者などを地域でささえあうシステムの検討 2 しんゆり芸術のまちづくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 1 生ごみリサイクルシステムの普及・啓発について 2 里山ボランティアづくり
調査 審議の 状況	【部会6回 勉強会1回開催】 <ul style="list-style-type: none"> 1 専門部会設置(案)の立案 2 区民会議ニュース編集・発行(4号) 3 全体テーマ(案)の立案 4 区民会議(全体会議)・区民会議フォーラムの企画・運営に関する調整 	【部会 14回 勉強会 6回開催】 <ul style="list-style-type: none"> 1 町内会・自治会、ボランティア団体、区社協へのヒアリング調査の実施(H23.3～6) 2 芸術・文化関連事業主催団体へのヒアリング調査の実施(H23.7～9) 3 第2回区民会議フォーラム(H24.3.3)で本部会の取組内容を中心に実施。各種活動などのPRや広報などの実施 	【部会 13回 勉強会 6回開催】 <ul style="list-style-type: none"> 1 エコ啓発用パンフレットの作成・配布 2 「麻生区生ごみアンケート」の実施(H23.5～7) 3 「生ごみリサイクル」をテーマに区民会議フォーラムを開催(H23.9.25) 4 生ごみリサイクルモデル事業の実施(H23.12～H24.3) 5 里山ボランティアモデル事業の実施(H23.12.10)

6 地域交流・文化部会の取組(1)

テーマ1:「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」

【麻生区の現状】

麻生区における高齢人口(65歳以上)

・2010年 31,996人(19.0%)・・・2010年国勢調査結果

【将来推計】(2011年 市総合企画局発表資料)

- ・2020年 44,000人(23.3%)
- ・2030年 53,400人(26.4%)
- ・2035年 56,500人(27.9%) ⇒ 区内人口ピーク 202,700人
- ・2040年 62,400人(31.0%) ⇒ その後も上昇が見込まれている。

【単独世帯割合】

- ・2005年 29.8%
- ・2010年 32.4%
- * 上昇傾向にある

【町内会加入率】

近年、68～70%で推移

【状況】

高齢化の進展

単身世帯の増加

近隣関係の希薄化

など

「無縁社会」の進展

地域でささえあう
絆づくりへ

東日本大震災を契機に、日頃からのささえあいの重要性などが再認識され、絆づくりに向けた動きも始めている。

【調査・審議経過】

1 高齢者・障がい者などを取り巻く課題の共有化

【委員から出された主な課題】

- ①引きこもりの高齢者がいる
- ②参加のきっかけが掴めないでいる
- ③生きがいが見つけれない
- ④老後について気軽に話せる仲間がない
- ⑤身近な居場所がない
- ⑥介護者が倒れる。鬱になる
- ⑦交通の便が悪く高齢者の通院・買い物不自由になっている
- ⑧近隣のひとり暮らし高齢者などの把握ができていない。

など 全14項目抽出



2 勉強会の開催

- * 各課題に対する既存の対応施策の把握
- ・区社協、市、その他団体の活動内容調査



3 ヒアリング調査の実施

- ・町内会・自治会 3団体
(第2期区民会議
「あいさつが交わし合える地域づくり事例集」も参照)
- ・ボランティア団体 3団体
- ・区社会福祉協議会



4 課題整理、解決策の検討

- ・既存の取組でカバーできていないことは？
- ・支援・協力することで改善できることは？
- ・区民や活動団体が望んでいることは？



など

ヒアリング調査などを通じて見えてきた課題など

1 町内会・自治会

【主な課題】

- ①地域でのつながりの希薄化
- ②各活動への参加者などの確保が困難
- ③ささえあい、助け合いを必要とする人の情報入手が困難
- ④役員などの高齢化と担い手不足



【主な取組事例】

- ①小地域での防災活動の実施
- ②祭り、どんと焼き、もちつき大会などのイベントを通じた交流の機会の創設
- ③勉強会、講習会などを通じた課題の共有化
- ④町会独自の要支援活動の実施

2 ボランティア団体、麻生区社会福祉協議会

～各団体や社会福祉協議会の実施する「ささえあいの活動」について～

【主な課題やその原因】

- ①利用者が少ない
 - ・利用したい人に情報が届いていないのでは？
 - ・民間事業者の参入による選択肢の拡大
 - ・人の世話になりたくない等の価値観を持つ人が多く利用をためらっているのでは？
- ②供給体制に限度があるため、要望されたニーズ全てに対応することは困難
- ③各団体を中心にした取組となっており、地域を含めた活動になかなか進んでいない。



【主な取組事例】

- ①各活動を通じたPRの実施などで、利用者の拡大を図っている。
- ②「ささえあい事業」を実施している地域では、グッドネイバースと地元民生委員、ささえあい協力員が連携して実施している。但し、人数的には少人数なため、一部の方への負担が大きくなる傾向もある。

解決策の検討～4つに集約～

1 広報活動

- ・ささえあいを必要とする高齢者・障がい者に情報がより届く広報方法の検討
- ・各団体の取組をPRできる機会の検討



【取組内容】

- ・市政だより区版特別号作成に向けた内容の検討
- ・ガイドブック保存版の作成に向けた内容の検討
- ・各団体の取組などをPRする機会の増設 など

2 地域の絆づくり

- ・地域活動等を通じた地域交流の場の検討
- ・小地域見守りを行なう仕組みの検討
- ・町内会、自治会等によるささえあい事業の運用展開



【取組内容】

- ・ふれあいサロンの催事の継続開催
- ・イベント、学習会などの開催
- ・ボランティア活動団体などとの連携の推進
- ・既存自主サークルなどの活動の育成 など

3 担い手の発掘

- ・ボランティア団体などと連携した地域活動の検討
- ・民生委員活動への支援体制づくりの検討
- ・地域人材の発掘方法の検討

【取組内容】

- ・シニア向け講座受講 ⇒ 地域活動への参加につながるような仕組みの検討
(市民館、市民交流館やまゆり、区社協などとの連携)

4 その他

- ・コミュニティバスの検討
- ・「コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワーク」が機能するための取組



【取組内容】

- ・今後高齢化の進展が進み、区の地形的な点からも移動手段が重要になることから、区内各地の取組を注視していく。
- ・自殺者の増加など社会的な問題にもなっていることから、気軽に相談しやすい体制の検討

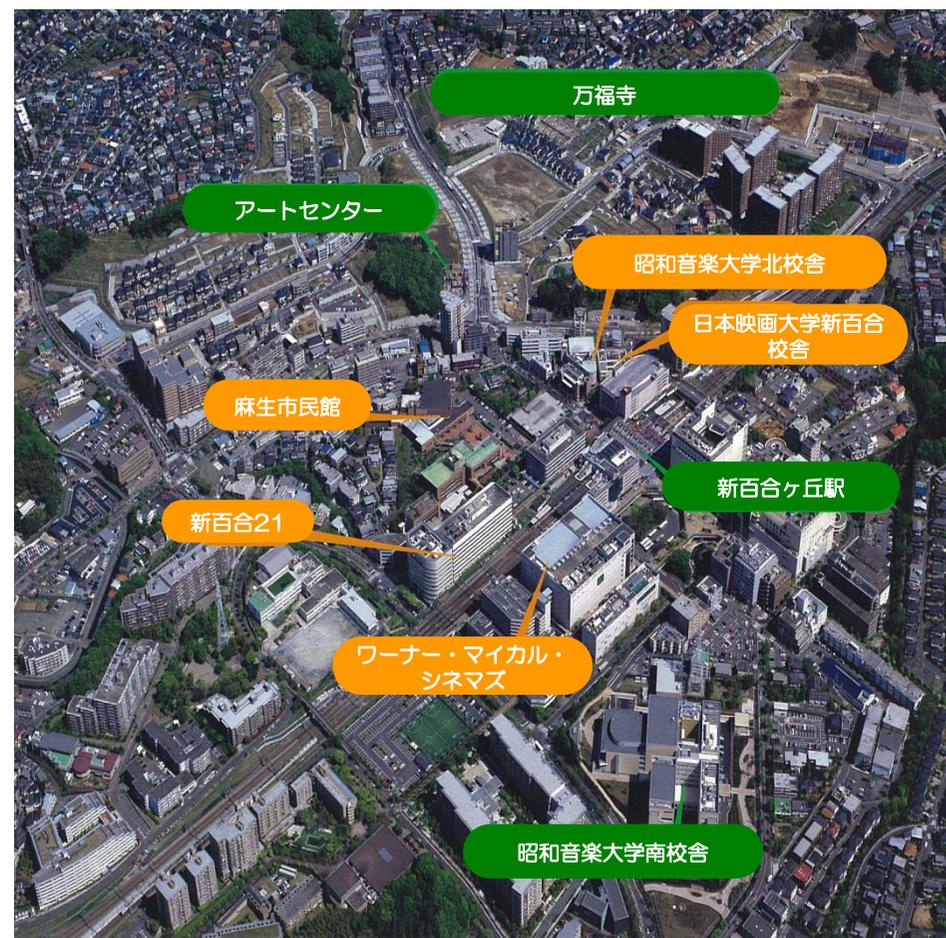
具体的解決策についてさらに審議を深め、提言としてまとめていく。

6 地域交流・文化部会の取組(2)

テーマ2:「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」

- 1 新百合ヶ丘駅周辺に**芸術・文化関連施設**が集積している。
- 2 **年間を通じた芸術・文化関連イベント**が開催されており、多くの区民が様々な形で参加している。
* 聴く、やる(演奏する)、参加(ボランティアなど)
- 3 「**芸術・文化のまちづくり**」の推進
* 区計画の4つの柱の一つに位置づけられ、取組が進められている。

麻生区らしさを体現する
特徴的な取組



【調査・審議経過】



1 課題の共有化

【委員から出された主な課題】

(1) 「点」から「面」へ広げる取組

- ・年間を通じて芸術・文化関連のイベントが多数開催されているが、それらが個々の「点」としての存在に留まっているのではないかと指摘が区民から聞いている。
- ・「**芸術・文化のまちづくり**」を推進するために、各イベントなどの連携などを進め「面」として捉えてアピールする必要があるのではないか。

(2) 認知度向上に向けた取組

- ・区民への認知度をさらに高めることに加え、区外への情報発信の工夫も必要ではないか？



2 ヒアリング調査

各団体の現状と問題点、市・区への要望を調査

【調査先(麻生区内をフィールドとして活動している各イベントの実行委員など)】

「麻生音楽祭」、「KAWASAKIしんゆり映画祭」、「川崎・しんゆり芸術祭」、「Kirara@アートしんゆり」、「しんゆりオーリーブまつり」、「あさお区民祭」、「あさお福祉まつり」、「あさお芸術のまちコンサート」 8団体



3 課題整理、解決策検討

ヒアリング調査などを通じて見えてきた課題など

1 特徴・利点

- ・芸術に関心のある人や関連する活動を行っている人が多い。
- ・ボランティア参加者の意識が高く、自主性を持って参加する人が多い。
- ・周辺で開催されるイベントとの相乗効果や教育機関などとの協働も可能。
- ・何年も継続しているイベントが多く、次世代への継承も図られている。
- ・ハード、ソフトが充実しており、都心に行かなくても良質な作品の鑑賞が可能。

2 課題・要望など

(1) 広報活動

- ・参加者増加に向けた、周知徹底のための手段、方法、タイミングなどの工夫が必要
- ・ホームページ、既存組織(町内会・自治会)等への協力の検討

(2) 連携について

- ・一部イベントでの連携は既に行なわれているが、さらに拡大した連携の取組が必要
- ・子どもから大人まで世代を超えた参加と区民、学校、団体、行政間の更なるネットワークの構築が必要

(3) 施設・設備関係

- ・練習場所などの活動の場が不足
- ・既存施設の音響設備の改善が必要

(4) 環境整備

- ・イベント開催時の案内や掲示などの制限が多く、「にぎわい」を演出することが困難(特に、新百合ヶ丘駅周辺)

解決策の検討

1 文化担当官(仮称)の設置

* 地域の芸術・文化団体との連携、幅広い地域情報の収集・発信、子どもから大人まで多くの区民が更に芸術・文化を楽しめる体制づくりが必要。それらの調整と相談機能を合わせもった窓口の設置

2 麻生文化会議(仮称)の設置

* 各種イベントの実行委員会、団体の代表者・関係者が一同に会し、年間を通じた情報発信、相互協力を行なう目的で実施。
・広報協力、人材交流、地元芸術家や団体間のネットワークの強化、連携した取組の企画・検討など



3 川崎市都市景観条例の弾力的な運用の検討

* 新百合ヶ丘駅周辺における条例の弾力な運用に向け、イベント開催時の広告幕、のぼりや立て看板の設置など、関係者を交えた協議を進め、**美観**と「**にぎわい**」が共生した街づくりに向けて検討



7 環境・緑化部会の取組(1)

テーマ1:「循環型のまち・生ごみリサイクル」

「生ごみ」は、他のごみと比べリサイクル化や減量化の余地があるのでは？

リサイクル化や減量化が進むと…？

処理量削減による環境負荷の低減

ごみ置き場の美観維持

農作物への堆肥として活用

処理費用の削減

土に還し資源循環を体験

花などの植栽活動との連携



など

第2期区民会議の取組も継承し、区民の誰もが関われる「身近なエコ活動」として、ごみ減量やリサイクルなどについて考え、行動するきっかけにしよう。

● 具体的取組経過

(1) エコ啓発用パンフレット「エコのまち麻生」の作成・配布

* 第2期区民会議取組を継承。区内小中学校を中心に約2,800部配布。

(2) 麻生区生ごみアンケートの実施 (H23.6~8 回収:1,165枚)

* 生ごみリサイクルなどに対する区民の取組状況調査

(3) 横浜市資源循環局へのヒアリング調査 (H23.6.14)

(4) 第1回区民会議フォーラム開催 (H23.9.25 参加者105名)

* 生ごみ堆肥・肥料で作った花や野菜の写真展 (H23.9.12~25)

(5) 生ごみリサイクルモデル事業の実施 (H23.12~H24.3)



アンケート調査実施状況



第1回フォーラム開催状況



写真展の開催状況

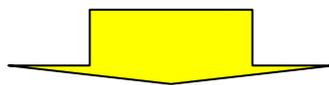
●生ごみリサイクルモデル事業とは？

【目的】

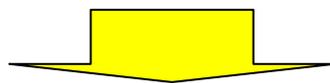
- ・区民が自家処理して作った乾燥生ごみを地域で有効活用して、資源循環させる。
- ・ごみの減量を通じ、焼却などに伴うCO₂発生を抑制し、地球温暖化防止活動の一助とする。

【実施の背景】

- ・生ごみアンケートの結果、ごみの減量になんらかの工夫をしている方・・・85%
- ・生ごみリサイクルをしている方・・・23%
⇒その内、できた堆肥を回収して欲しい方・・・14%



堆肥を使いたい人、使える人が生ごみリサイクルに取り組んでいる。



できた堆肥や乾燥生ごみの活用先があれば、取組が広がるのではないか。

【モデル事業の流れ】

【実施期間】 ・H23.12～H24.3.(第4土曜9時～11時) 計4回
【対象堆肥】 ・乾燥生ごみ ※H24.3月のみ完熟堆肥も回収

<区民会議委員が担当>

②区役所ロビーでの回収

- * 受付並びに引渡しの実施
- * 生ごみ処理機の展示など

当日持参

乾燥生ごみ・堆肥

①提供者

当日受け取り

③はぐるま工房
(完熟堆肥へ加工)

当初、家庭で出来た完熟堆肥を含め実施する予定であったが、「廃棄物処理法」や「肥料取締法」による規制があることがわかり、法律に抵触しない範囲で計画を変更。

④花の苗木などに有効活用

モデル事業実施状況



生ごみ処理機器展示状況



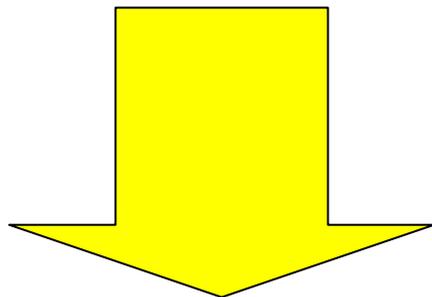
【まとめ】

これまで実施してきた取組結果などを踏まえ、より区民が生ごみリサイクルに向けた取組が進められるような環境整備や啓発方法などについて取りまとめを行い提言につなげていく。

7 環境・緑化部会の取組(2)

テーマ2:「グリーンアップ・里山ボランティア」

- ・麻生区には、市内の農地・山林のうち約42%の緑が集積しており、貴重な資源である。
- ・手付かずの緑地もまだ多くあり、その保全活動が必要



・環境に関する活動へ、「現在参加している(13.7%)」「今後参加したい(45.2%)」とする区民が約60%おり、7区の中で一番高い割合を示しており、関心も高い。
(2008年度 市民アンケート結果より)

- ・区民の力で、これまで手付かずだった緑地の保全活動を進めていく。
- ・活動を通じ、区の特徴の一つでもある緑への親しみや愛着を持ってもらう機会とする。
- ・参加者同士のつながりが生まれ、新たな活動の展開などが期待できる。

● 具体的取組経過

(1) 麻生区内の緑地などの管理状況などの把握

- * 道路公園センターからの情報提供
- * 既存活動団体への活動参加とヒアリング調査の実施
- * (財)川崎市公園緑地協会主催の里山研修会への参加

(2) 里山ボランティアモデル事業実施に向けた企画・調整

- * 候補地の選定(市有地の中から4箇所選定。協力:道路公園センター)
 - ⇒ 現地の下見(4箇所)
 - ⇒ 実施予定場所の絞り込み
 - ⇒ 地元町内会、関係機関等との調整

(3) 里山ボランティアモデル事業実施(H23.12.10)

作業前準備風景



作業風景

● 里山ボランティアモデル事業とは？

【目的】

麻生区内で緑の保全活動が行われていない手付かずの緑地の保全を目的に、里山ボランティアを新たに組織し活動を実施する。

特定の場所に固定した活動ではなく、その都度手入れの必要な緑地で活動を実施する。

【実施概要】

- ・実施日：平成23年12月10日(土) 10時~12時30分
- ・実施場所：月読神社周辺の市有地(下麻生1丁目)
- ・参加者：公募ボランティア 7名、区民会議委員6名、森林インストラクター 2名
(財)川崎市公園緑地協会 1名、事務局他 5名 合計 21名
- ・作業内容：竹の剪定、枝払い、倒木の整理、廃棄物の撤去など



【まとめ】

- ・公募ボランティアの参加は少なかったが、景観の整備などに効果があったので、継続的な取り組みが必要。
- ・参加者からは好評を得られ、「また参加したい」という意見がほとんどだった。
- ・取組を広げる際、実施主体と地元町内会・他団体との連携の検討も必要。
- ・実施が1回しかできず、新たな組織の立ち上げまではつながらなかったが、活動継続に向けた調整を検討している。

ご清聴ありがとうございました。



引き続き、質疑応答に移ります。